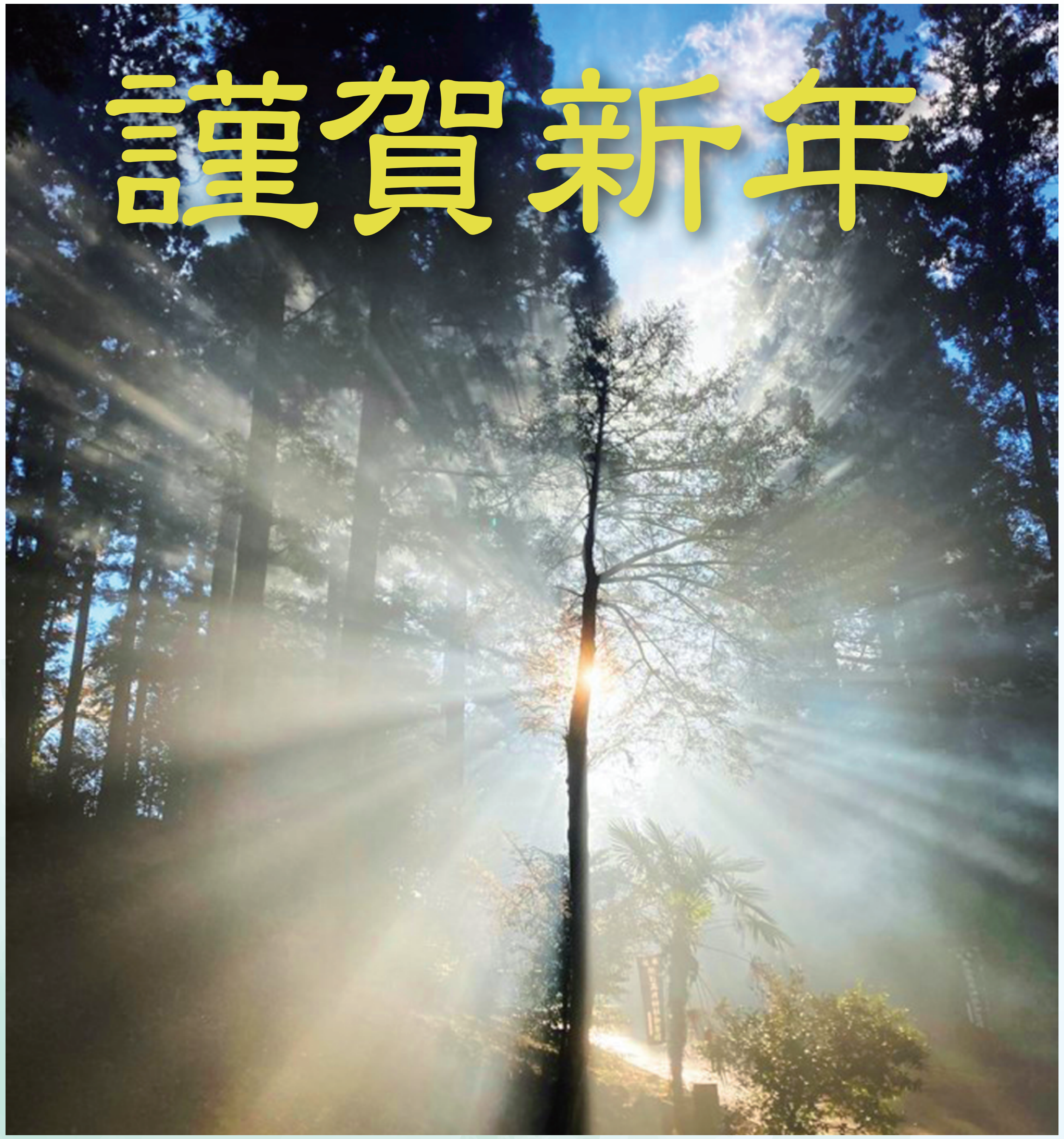


さくらゐ川

第一一四号　令和四年一月一日
発行　熱日高彦神社社務所
電話　〇二二四－六二－〇二四一
FAX　〇二二四－六六－三四八七

年頭所感

宮司　黒須　貫

あけましておめでとうございます。本年が幸多き年でありますようご祈念いたします。

新型コロナウイルス感染の小康状態の中、久しぶりに大切な方と過ごされているのではないでしょうか。辛抱してきた末にこのような新年を迎えられたことを、ひとまず喜びたいと存じます。

ウイズコロナの中、人と接触しない生活ができることを知った一方、顔を合わせてのコミュニケーションがどれほど大切かも思い知りました。長い歴史の中、幾たびもの感染症の危機にさらされながら、人々はより強固な人の絆を育んできたのでしょう。今回もまたきっと乗り越えられると信じます。

春祭の神輿渡御が二年間できませんでした。祭は究極の地域コミュニケーションの場です。何とか再開したい。こんな時だからこそ復活してほしい。多くの方からお声を頂いております。伝統行事は柔軟だからこそ数百年続くのです。アフターコロナの祭は新しい時代の地域の元気を生み出すものと思います。

神社Q＆A

天孫降臨とは

天孫降臨とは、当社御祭神天津日高比古番能邇邇芸命（以下、邇邇芸命（ニニギノミコト）とする）が行った神道の歴史において大変重要な神話の一場面をさします。

「天の孫が降臨する」と読める通り、天照皇大神の子孫が地上に降りてくる様子を描いた場面になります。何故高天原から地上に降りることになったのでしょうか。紐解いていきましょう。

須佐之男命は、高天原から追放となると地上で暴れる「ヤマタノオロチ」を倒し出雲の王となりました。その子孫大国主命が出雲を引き継ぐと人々に技術や知恵を授け『国造り』を成し遂げました。古事記においては「国造り後の世界は人も神も分け隔てのない平等な世界になった」と記してあります。

しかし、高天原の神々から見た地上は、未だ秩序なき無法地帯にしか見えなかった為に天照皇大神は神々を地上に遣わせ国の支配権を大国主命に譲らせました。

「国譲り」を成功させた天照皇大神は、次に地上に天津神を降臨させようとしました。最初の候補は「天忍穂耳尊（アメノオシホミミノミコト）」でしたが、子どもの誕生を理由に辞退、その代わり生まれた子を地上に降ろすことにしました。この子供が邇邇芸命です。

天照皇大神の命に従った邇邇芸命は、国津神の猿田彦の案内で地上に降臨しました。

降臨の際邇邇芸命が持っていた「三種の神器」（八咫鏡（やたのかがみ）・八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）・草薙剣（くさなぎのつるぎ））は今も天皇家に受け継がれています。

（写真／神宮徴古館所蔵）

神社暦

一月

一日　歳旦祭
　　　元旦献膳祭
五日　小寒（二十四節気）
一四日　斎火祭　どんと祭
一五日　小正月
二〇日　大寒（二十四節気）

二月

一日　如月月次祭
三日　節分祭
四日　立春（二十四節気）
一一日　建国記念日
一七日　祈年祭
一九日　雨水（二十四節気）
二三日　天皇誕生日

三月

一日　弥生月次祭
三日　上巳の節句（五節句）
　　　ひなまつり
五日　啓蟄（二十四節気）
二一日　祖霊祭　彼岸
　　　春分（二十四節気）

歳旦祭

正月元旦午前０時

どなたも社殿内に参列ください。御神札を授与いたします。

新年一番祈祷

歳旦祭修了後に新年最初の御祈祷をお受けします。事前にお申込みください。

お日待ち祭

氏子全戸対象に新年神棚祭にうかがいます。家族で神棚にお参りし、清々しい一年をスタートしてください。

和紙灯篭奉納

初穂料一体二〇〇〇円

参道に暖かな明かりを灯してください。

斎火祭（どんと祭）

十四日午後五時

古神札や正月飾りをお持ちいただき斎火に当たり一年間の家内安全無病息災をお祈りください。

おふるまいは中止させていただきます。ご了承ください。

厄祓祈祷受付中

厄年は、古くから環境や体調の変化が起こりやすい年齢で、注意が必要な年とされます。前後の年（前厄・後厄）も合わせて神社にお参りし神様のご加護を頂いて災厄が身に振りかからないように「厄祓い」を受けます。当地では悪い年を直してもらう「年なおし」とも言われます。

特に男性は四二歳・女性は三三歳が大厄とされます。

また一面では、重要な役がまわって来る年など縁起のいい年ともいわれています。

令和四年の厄年

男性	女性
二五歳（平成十年生）	一九歳（平成一六年生）
四二歳（昭和五六年生）	三三歳（平成二年生）
六一歳（昭和三七年生）	三七歳（昭和六一年生）

お日高さんの自然・六七

きのこ

夏の猛暑の季節が過ぎるとキンモクセイの香りが届く時期になると、この地方には昔から「キンモクセイが咲くと秋のキノコが出はじめる」という言い伝えがある。

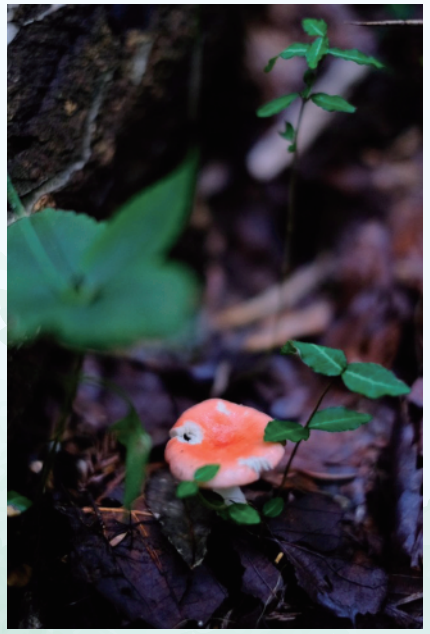
今年で趣味の会（仙台キノコ同好会）で福島原発事故後のキノコ放射能調査をはじめて十年になる。九月十九日に今年二回目の調査が行われた。

一ヵ所目はイノハナ（コウタケ）幼株一、あと殆ど収穫なし。

二ヶ所目はアミコ（アミタケ）が大量、しかし他のキノコは見当たらず。三回目以降に期待して解散となった

我々がキノコと呼んでいるのは、正式には菌類の子実体（シジツタイ）の部分である。花の咲く植物の花に当たる器官で、子実体で胞子が作られ菌類は増えていくのである。キノコ（菌類）の本体はクモの巣の様な菌糸で、土の中や木の皮の内部、或いは動物の皮下などに縦横無尽に巡らして生きている。菌糸に栄養が十分行き渡るとやがて一部が肥大化しキノコが作られる。キノコの形は傘形が一般的だが、球体、枯れ枝状、耳たぶ状など千差万別である。

キノコの季節というと秋だが、気を付ければ一年中身近で見られる。



山でキノコを見る（採る）と、先ず食える（可食）食べられない（不可食）の議論になる。食毒の判別については昔から様々な迷信があるので信じてはいけない。例えば次の通り

●色鮮やかなのは不可食：
（例外）タマゴダケ、アンズタケは可食

●地味なのは可食：
危険 ドクツルタケ、ドクササコは猛毒

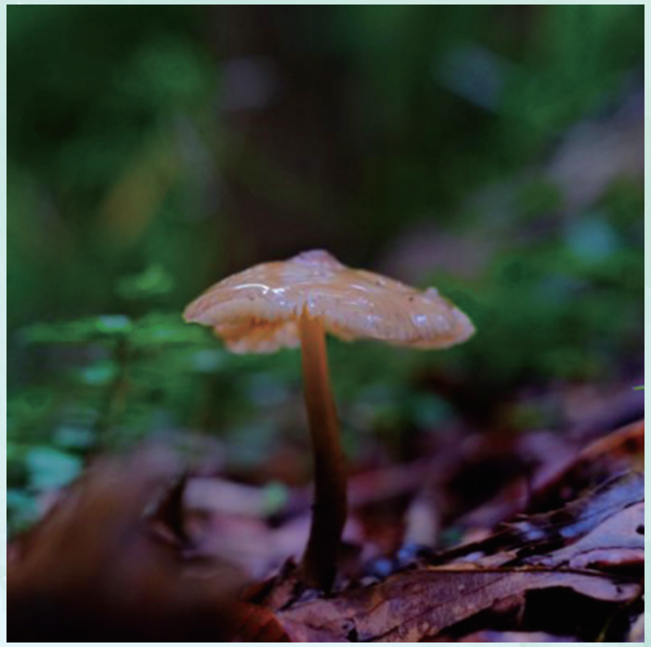
●縦にさけやすいのは可食：
危険 ドクアジロガサ、ドクササコハは猛毒

●虫の食べ痕があるものは可食：
危険 虫と人とでは消化メカニズムが違う

●木に生えているものは可食：
危険 ツキヨダケ、オオワライダケなどは毒

【その他】茄子と煮たり、塩漬けしたりすると毒が消えるなども迷信である

※注意すべき毒キノコ：
クサウラベニタケ（アブラシメジ）、ツキヨタケ、ドクツルタケ、カエンタケは猛毒

キノコによる食中毒を防ぐには自己判断はしない、専門家にみてもらう、分からないものは食べないことが大事です。

（文／小島和夫氏）